

製品に関する良くあるご質問と回答



Arcserve® UDP 7300/7320 Appliance

注：Arcserve UDP 7300/7320 Appliance は販売終了製品です

1. Arcserve UDP 7300/7320 Appliance（以下 Arcserve UDP 7300/7320）では標準でどの機能が使えますか？

Arcserve UDP Advanced Edition の機能が使えます。Arcserve UDP Premium Edition の機能である「役割ベースの管理」や「ハードウェア スナップショット対応」、「アシュアードリカバリと SLA レポート」を使用するには、ソフトウェア・アップグレード オプション製品をご購入ください。

2. 仮想スタバイやインスタント VM 機能を使用できますか？

はい、オプション不要で使用できます。パフォーマンスの観点で、Arcserve UDP 7300/7320 とは別の VMware または Hyper-V の仮想基盤に仮想マシンを作成することをお勧めします。

3. テープへのバックアップはできますか？

はい、二次バックアップ先としてテープ デバイスへバックアップする事ができます。本体購入時にオプションの増設カード（SAS/FC）を併せてご購入ください。

4. 2 ドライブ以上のテープ装置を接続する事は可能ですか？

はい、ソフトウェア・アップグレード オプションまたは Arcserve Backup for Windows Tape Library Option をご購入いただければ可能です。

5. Arcserve Backup や Arcserve Replication/High Availability の機能も使えますか？また、バックアップ/レプリケーション先に制限はありますか？

ソフトウェア・アップグレード オプションで Premium Edition にアップグレードいただくことで Arcserve Backup の全機能と Arcserve Replication のファイルサーバシナリオを、Premium Plus Edition にアップグレードいただくことで Arcserve Backup と Arcserve Replication/High Availability の全機能を使用できます。

Arcserve Backup を使用するには一次バックアップ先が Arcserve UDP 7300/7320 の内蔵 HDD または直接接続されたテープ デバイスである必要があります。

Arcserve Replication/High Availability を使用するにはレプリカ サーバが Arcserve UDP 7300/7320 内の仮想マシンである必要があります。

6. 復旧ポイント サーバ (RPS) 間でバックアップデータのレプリケーション (複製) をする場合、複製先は Arcserve UDP 7300/7320 でなければいけないのでしょうか？

いいえ、同じバージョンの RPS であれば、Arcserve UDP 7300/7320 以外でもバックアップデータの複製先にすることができます。例えば、クラウドにインストールされた RPS にバックアップデータを複製することも可能です。

7. Arcserve UDP 7300/7320 にプリ インストールされている Arcserve UDP のバージョンを教えてください。

Arcserve UDP 7300/7320 にプリ インストールされている Arcserve UDP のバージョンは [サポートサイト](#) で確認いただけます。

8. Arcserve UDP 7300 と Arcserve UDP 7320 の違いは何ですか？

ハードディスクドライブ (HDD) とソリッドステートドライブ (SSD) の容量が異なり、Arcserve UDP 7320 の方が多くのデータをバックアップして保存する事ができます。それぞれの容量は以下をご覧ください。両製品にこれ以外の違いはありません。

Arcserve UDP 7300 : HDD 12TB、SSD 240GB

Arcserve UDP 7320 : HDD 24TB、SSD 480GB

9. ライセンス キーはどのように入手できますか？また、ライセンスの使用量に制限はありますか？

Arcserve UDP のライセンス キーは電子メールで別納されるライセンスプログラム証書に記載されます。登録方法は [UDP Appliance 設置と環境設定手順](#) をご覧ください。ライセンスの使用量に制限はなく、Arcserve UDP 7300/7320 が一次バックアップ先である限り、バックアップ対象の台数/CPU 数を問わずご利用いただけます。

10. バックアップ容量がバックアップ可能容量を超えた場合は、どうすればよいのでしょうか？

Arcserve UDP 7300/7320 を追加購入ください。2 台目以降の Arcserve UDP 7300/7320 を 1 台目の Arcserve UDP 7300/7320 の管理下に入れ、統合管理できます (※)。なお、Arcserve UDP 7300/7320 自体をバックアップする場合を除き、外部のストレージを一次バックアップ先とすることはできません。

※ 既設の Arcserve UDP 7300/7320 の Arcserve UDP コンソールのバージョンアップが必要になる場合があります。プリインストールされている Arcserve UDP のバージョンをご確認ください。

11. Arcserve UDP 7300/7320 の OS を Windows Server 2012 R2 から Windows Server 2016 にアップグレードすることはできますか？

いいえ、できません。

12. Arcserve UDP 7300/7320 をファイル サーバやアプリケーション サーバとして兼用する事はできますか？

いいえ、Arcserve UDP 7300/7320 をバックアップ サーバ以外の用途で利用することはできません。

13. アンチウイルス ソフトウェアや UPS 管理ソフトウェア、サーバ監視ソフトウェアのインストールはできますか？

はい、Arcserve UDP 7300/7320 の OS は Windows Server 2012 R2 Standard Edition ですので、インストールするソフトウェアの動作要件を確認して導入してください。

アンチウイルス ソフトウェアを導入する場合は Arcserve UDP のインストールディレクトリやバックアップデータの保存先はスキャン対象から除外することをお勧めします。詳しくは Arcserve の [サポートサイト](#) で確認ください。

14. 購入前の動作検証はできますか？

Arcserve UDP のすべての機能が 30 日間無償で試せる [トライアル版](#) をご利用ください。ソフトウェア版の Arcserve UDP と Arcserve UDP 7300/7320 は全く同じ機能を提供します。または、弊社で定期的開催している [無償ハンズオントレーニング](#) もご活用ください。

15. 購入後に設置場所が変わっても使用し続ける事はできますか？

はい、可能です。設置場所が変わった場合は、[Arcserve ジャパンダイレクト](#) にお知らせください。設置場所情報は、ハードウェアのオンサイトサポートの際に必要なになります。

16. Arcserve UDP 7300/7320 を SAN に接続できますか？

はい、オプションの増設カードを購入いただく事で、SAN に接続できます。これにより、SAN 上にデータストアを持つ vSphere 仮想マシンを、SAN 転送モードで高速にバックアップする事ができます。

17. 本体納入後にオプションの増設カードを追加購入できますか？

購入できますが、別途設置作業費が必要になります。作業費は個別にお見積りいたしますので販売店経由でご相談ください。

18. ラックレールの可動範囲を教えてください。

同梱されるラック マウント キットは、25.59～33.46 インチ（650mm～850mm）の奥行に対応します。（上記サイズはラックの外寸ではなく取付ける支柱と支柱の間である点にご注意ください。）

19. 電源ケーブルの仕様を教えてください。

定格:125V-15A、ケーブル長:1.8m、プラグ形状：NEMA 5-15P / IEC C13 のケーブルが 2 本同梱されます。なお、200V 電源を使用される場合は、お客様の方でケーブルをご用意ください。

20. RoHS 指令に対応していますか？

はい、対応しています。

21. メンテナンス（保守）の内容を教えてください。

Arcserve UDP 7300/7320 には 5 年間のメンテナンスが標準で付加されています。メンテナンスの内容は以下の通りです。

- ・ 平日 9:00～17:30 のテクニカルサポート（ハードウェアの修理はオンサイトで行います。）
- ・ Arcserve UDP の最新バージョンへのアップグレード

22. メンテナンスはいつから始まりますか？

メンテナンスは納品日から開始されます。ただし、1か月分のバリューサポートを同時に購入する事で、納品日より30日以内先の日付をメンテナンス開始日として指定する事もできます。

23. メンテナンスの更新は可能でしょうか？

いいえ、メンテナンスの更新はできません。メンテナンス期間が終了しても使用を継続することはできませんが、テクニカルサポートへのお問合せはできなくなります。5年のメンテナンス終了後は、最新モデルの購入をお勧めします。

24. ハードウェアのオンサイト サポートの来社時間について教えてください。

ハードウェアのオンサイトサポートにおける訪問時間の目安は障害箇所が特定できてから4時間以内（※）を目標としています。また、作業は平日の9:00-17:30の間に実施いたします。障害箇所を特定した時刻や想定される作業内容によっては翌日以降の訪問になる事がございます。

※ Arcserve UDP 7300/7320 の設置場所が弊社サポート拠点（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）から30km圏内の場合の目標です。設置場所が弊社サポート拠点から30km圏外の場合は、目標時間が異なります。詳細は [Arcserve ジャパンダイレクト](#) にご確認ください。

25. 24時間365日のサポートメニューはありますか？

はい、「24時間365日ハードウェアサポートオプション」をご購入いただく事で、ハードウェアの保守作業およびお問合せの受付時間帯を24時間365日に拡張できます。

※ ただし、訪問までの時間は標準のメンテナンスと同様で、障害箇所が特定できてから設置場所により4時間以内を目標としています。

26. 故障交換された部品はどのように扱われますか

[Arcserve Appliance Support Policy](#) に記載の通り、交換された旧部品の所有権はArcserveに帰属し、Arcserveが持ち帰ります。ただし、データの記憶媒体であるハードディスクドライブ（HDD）およびソリッドステートドライブ（SSD）については、返却不要サービスをオプションで用意しています。

27. OSがWindows Serverとの事ですが、ユーザがWindows Updateを自身で適用する事は許可されますか？

はい、Windows Updateを適用いただいて結構です。お客様の環境に合った適切な方法でWindows Updateを実施してください。なお、デフォルトでは自動更新が無効になっています。

28. Arcserve UDP 7300/7320 自体のハードウェア障害を検知する方法はありますか？

はい、IPMI および RAID コントローラ管理ツールを使用し Arcserve UDP 7300/7320 自体のハードウェアの障害を検知・通知できます。また、上記ツールを使用してハードウェア障害をメール通知する方法をまとめた[手順書](#)を公開しております。なお、Arcserveが独自に Arcserve UDP 7300/7320 アプライアンスの状態を監視する事はありません。

29. Arcserve UDP 7300/7320 自体のバックアップは可能ですか？

はい、Arcserve UDP を使ったバックアップとベアメタル復旧が可能です。Arcserve UDP 7300/7320 自体の障害に備え、バックアップは必ず取得してください。[UDP Appliance 設置と環境設定手順](#)に設定例を掲載しています。また、Arcserve UDP 7300/7320 外部へのバックアップが必要ですので、バックアップ先として使用できる NAS や外付 HDD をご用意ください。

30. Arcserve UDP 7300/7320 のハードウェア障害後、ベアメタル復旧作業は誰が行うのですか？

Arcserve によるハードウェア オンサイト サポートではハードウェアの交換修理までを行います。その後のベアメタル復旧作業はお客様にて実施いただきます。テクニカルサポートの詳細は、[Arcserve Appliance Support Policy](#) をご覧ください。

31. Arcserve UDP 7300/7320 には DVD ドライブが搭載されていませんが、Arcserve UDP 7300/7320 自身を BMR するにはどのように復旧メディアを起動するのでしょうか？

以下の 3 つの方法があります。方法 1 および方法 2 は Arcserve UDP 7300/7320 の背面にある USB ポートを使用します。

方法 1 :

USB メモリで作成した復旧メディア（ブート可能 BMR USB メモリ）を起動する。

方法 2 :

USB 接続の外付 DVD ドライブを用意し、DVD に書き込まれた復旧メディア（ブート可能 BMR ISO イメージ）を起動する。

方法 3 :

BMC のバーチャルメディア機能を使い、Windows 共有上に保存された復旧メディア（ブート可能 BMR ISO イメージ）を起動する。